

The CCI logo consists of the letters 'CCI' in a white, sans-serif font, positioned inside a solid blue square. The 'C' and the first 'I' are larger than the second 'I'.

CCI

化学は世のため、
人のため。

Sustainability Report 2024

シーシーアイグループ サステナビリティレポート

シーシーアイホールディングス株式会社
サステナビリティ推進室
岐阜県岐阜市橋本町2丁目20番地 濃飛ビル12階
<https://cci-corporation.com/>

Sustainability Report 2024

シーシーアイグループ サステナビリティレポート

化学は世のため、 人のため。

安心・安全・快適なモビリティ社会を実現したい。
落ち着いて暮らせる、静かな住環境を提供したい。
人々の健康で豊かな生活を支えたい。
環境に優しいモノづくりを突き詰めたい。

私たちシーシーアイグループは、
長年にわたり培ってきた化学の力を活用し、
豊かな社会と持続可能な地球環境の実現に貢献してまいります。

企業理念

Our Purpose 私たちの存在意義

「新しい」を共創し、
世界に安心・安全・快適を提供します

Our Values 私たちの大切な価値観

Change

変革への挑戦

Create

お客様目線で
創意工夫

Innovate

全員で経営革新

経営基本方針

「CHANGE」競争力を維持・向上させるため、
時代に合わせ、ビジネスモデルを変え、働き方を変える。

Contents

- 02 企業理念
- 03 目次・編集方針
- 04 トップメッセージ
- 08 価値創造の歴史
- 09 シーシーアイグループについて
- 10 シーシーアイの主要製品
- 11 暮らしを支えるシーシーアイ製品
- 12 価値創造プロセス
- 13 事業部の取り組み
 - 13 カーケミカル事業本部
 - 14 住設・建材事業部
 - 15 産業タイヤ事業部
 - 16 研究開発部
- 17 特集 1
 - 持続可能な暮らしの新しい
タネをまく
- 19 サステナビリティの取り組み
- 21 ESG活動報告
 - 21 環境
 - 23 社会
- 25 特集 2
 - 企業理念浸透プロジェクト
- 29 ESG活動報告
 - 29 ガバナンス
 - 31 ESGデータ一覧

■編集方針

シーシーアイグループは、すべてのステークホルダーの皆様に当社グループのサステナビリティに関する考え方や取り組みをお知らせするために、本レポートをWebで発行しています。E(環境)・S(社会)・G(ガバナンス)に対する事業活動を通じた取り組みに加えて、企業価値の向上をめざす目標も掲載しています。当社では、今後もサステナビリティ経営の推進に努め、継続して情報を開示してまいります。皆様からのご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

■対象期間

2023年4月～2024年3月

■対象範囲

シーシーアイホールディングス(株)、シーシーアイ(株)およびシーシーアイグループ(国内・海外)

※本文中の「シーシーアイ」はシーシーアイホールディングス(株)およびシーシーアイ(株)の総称。

「シーシーアイグループ」はシーシーアイおよび国内、海外のグループ会社の総称。

■発行時期

2024年9月(前回発行7月、次回発行7月予定)

■担当部署・問い合わせ先

シーシーアイホールディングス(株) サステナビリティ推進室

■参考としたガイドライン

GRIスタンダード(GRI)、ISO26000

■免責事項

本レポートには、シーシーアイおよび対象範囲となる会社の過去と現在の事実だけでなく、発行日時点における計画や経営方針、戦略に基づいた将来予想が含まれています。この将来予想は、記述した時点ですべての情報が正しいと仮定した判断であり、諸条件の変化によって将来の事業活動の結果等、予想とは異なったものになる可能性があります。皆様には、以上をご理解いただきますようお願いいたします。

シーシーアイでは、従業員を対象に「大切にしたい緑に彩られた風景」をテーマにした写真の社内公募を行いました。多数の応募作品の中から優秀作を紹介しています。



長野県松本市



滋賀県高島市



富山県魚津市



山形県山形市



岐阜県加茂郡坂祝町



長野県南佐久郡佐久穂町

トップメッセージ

豊かな社会と持続可能な地球環境の 実現をめざして、 ステークホルダーの皆様と 「新しい」を共創する

世界トップクラスのカーケミカル製品で
クルマ社会の安心・安全・快適を支える

当社は昭和24年(1949年)の創業以来、自動車の「走る」「止まる」という基本性能を常に安全に担保するエンジンクーラントやブレーキフルードなどカーケミカル製品をはじめ、産業用ウレタン車輪製品、防音材・制振材製品、バイオ製品(油脂分解微生物製剤)など、世界中に安心・安全・快適を提供するために、研究開発型メーカーとして、モノづくりに励んでまいりました。



代表取締役社長/CEO

岡部 鉄也

トップメッセージ

創業時、最初につくったのが自動車のブレーキフルードです。戦後まもない頃、全国各地で、品質の劣るブレーキフルードが原因となるバスの事故が社会問題となっていました。

そこで当社では、「悲しい事故を無くしたい」という思いからブレーキフルードの研究開発に「不撓不屈」の精神で取り組み、創業から5年後に高性能ブレーキフルード「ゴールデンクルーザー」の発売にこぎ着けました。国内の自動車メーカーやバス会社への採用だけでなく、権威あるアメリカの試験機関からも認定を受け、海外市場への販売の糸口をつかむこととなりました。

ブレーキフルードと同時に開発に注力したのがエンジンクーラントで、国内においてはどんな厳寒地域での使用にも耐えうる高い品質が、やはり自動車メーカーなどから



走行実験を含む当時の研究データをまとめた「CCIレポート」

高く評価されました。

そして、これらカーケミカル製品は、やがて海外へと進出していきました。きっかけとなったのは、国内の有力自動車メーカーが1970年代にアメリカに進出する際に、当社にも米国進出を願うお話がありました。そのご期待に応える形で1980年に現地法人を設立。初の海外進出を果たしました。その後、欧州、東南アジア、中国、南米などにも進出し、当社の強みであるグループ供給体制が構築され、海外においてもカーケミカル業界のリーディングカンパニーとなってまいりました。

そして、2023年8月、日本ケミカル工業(株)をグループ会社化しました。同社は、当社同様に高品質のエンジンクーラント製造技術のノウハウを有し、電動車両(EV)向け製品の開発にも早くから取り組んでいます。2024年4月には、カーケミカル製品とオイル製品の強固な国内営業網を持つ(株)ユーエスシーをグループ会社化しました。グループ会社との協働によって生まれるシナジーにどうかご期待ください。



産業用ウレタン車輪

「化学は世のため、人のため。」… 多彩な技術と製品で社会の発展に貢献する

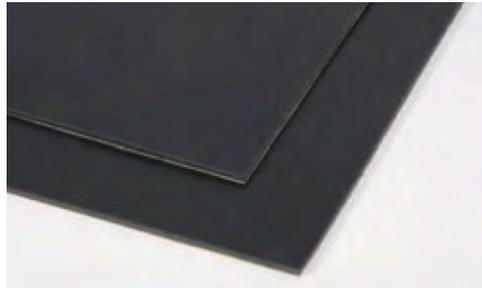
当社の歩みを樹木に例えると、カーケミカル事業を幹として世界に根ざして育った若木が、ウレタン車輪製品、防音・制振材製品、バイオ製品などに枝葉を広げ、多彩な分野で豊かな実りを社会にもたらしているといえます。

1970年から開始した産業タイヤ事業では、クレーンやフォークリフトに使われるウレタン車輪を製造し、OEMでトップシェアを誇っています。優れた耐久・耐熱性を持つ当社のウレタン車輪は、転がり抵抗が少ないのも大きな特長です。品質はもちろんのこと、SDGsへの貢献を視野に、省エネ、省電力製品の開発に取り組んでいます。

1992年から開始した住設・建材事業では、騒音や振動を抑える機能を持つ素材が、様々な分野で利用されています。これまでは主に建築関連資材や鉄道などの防音材・制振材

トップメッセージ

として活用されてきましたが、今後は、より静かな車室空間が求められる次世代モビリティにおいても、騒音を静かにするといった部分で、当社の防音・制振技術が活用されると考えています。



制振材

真のカスタマーフォーカスをめざして

当社は研究開発型メーカーとして発展を遂げてまいりましたが、当社製品をご利用いただくお客様に対して「今以上に、もっとお役に立ちたい」という思いが、その原動力となっているのは間違いありません。

そうしたお客様とのコミュニケーションを更に深めるべく、この度、組織を大改編しました。営業部隊から開発部隊に至るまで、お客様のニーズをしっかりと捉えて製品開発に取り組む。つまりは「顧客第一(Customer Focus)」

のもと、特に海外比率の高いカーケミカル事業において、お客様からの要求にスピード感のある対応ができるよう組織体制の強化を図りました。これによって、当社はより一丸となって顧客満足度の向上と強固な顧客との関係の構築に力を注いでまいります。

これからも失敗を恐れず、「顧客第一(Customer Focus)」の姿勢で、果敢に挑戦していきます。これまで、商売の裏につながらなかった研究開発も少なくありませんが、やはり、あくなき「挑戦」を続ける姿勢、「トライ・アンド・エラー」をやり続けることが大事です。「継続は力なり」、これに尽きると思っています。

一方で品質管理体制については、とりわけ自動車業界においては、「万が一」のトラブルも許されません。なぜなら、1万回に1度のヒューマンエラー、システムの不具合であっても、それが大きな事故につながる恐れがあるからです。

従って、しっかりとしたリスクヘッジ(危険防護策)をはかり、起こりうるリスクをあらかじめ予測して万全の対策を講じる。様々なリスク対応できる体制を事前に備えておくことが必要です。そうしたガバナンスの構築、運用にも鋭意、努めてまいります。



世の中も、働く人も変わっていく中で、会社も変わっていかなければならない

さて、こうした企業活動を、この先、100年、200年と続けていこうと考えると、やはり、絶えず変化する社会課題に真摯に向き合い、スピード感をもって取り組む必要があります。

そのため、2022年4月には私が最高責任者となる「サステナビリティ推進委員会」を設置しました。

環境面では、製造工程における環境負荷の軽減施策で、KPI※を設定して達成状況を定点観測しながら、着実に成果を出せるよう取り組んでいます。

※KPI:重要業績評価指標

トップメッセージ

更には環境負荷低減に貢献できる技術開発にも注力しています。例えば、鉱物油を食べる微生物を用いて製品化することによって、原油流出事故などの際に海の浄化に役立ったり、土地の改良に使ったり、といった画期的な環境保全活動が期待できる研究テーマにも取り組んでいるところです。

社会面では人権尊重の取り組みを重要課題と位置づけ、人権方針のもと、人権研修や人権デュー・ディリジェンス（人権DD）の実施等、そして当社だけでなくサプライチェーンにおける取り組みも進めております。

100年企業をめざして企業理念の再構築へ

企業の持続可能性という点では、2022年度に「企業理念探究プロジェクト」を立ち上げました。「100年企業」をめざし、原点に立ち還って私たちのパーパス（存在意義）を経営層と社員で議論しながら、これまでの理念の想いを受け継ぎ、より分かりやすい表現に再構築しました。大事なのは、理念を新しい世代の人たちにつなげ、継続して行くことです。それを担う理念の伝道師のような人材の育成と組織・風土づくりを、2023年度に新たに立ち上げた「企業理念浸透プロジェクト」を通じてPDCAのサイクルを回し、スパイラルアップしていきたいと思っております。

理念を全従業員に浸透させる施策の一例として、一人ひとりが業務で注力する行動「My Action」を掲げ、社内に公表し、コミュニケーションの活性化や、自分ごと化するツールとして活用しています。その他様々な浸透活動を通じて、従業員一人ひとりが企業理念であるパーパス（存在意義）を実現し、お客様そして社会に貢献できる企業をめざしてまいります。

シーシーアイを育ててくれた地域に恩返ししたい

最後に、当社の地域貢献についてお話しします。グローバル企業にとって世界に視点を置くことは重要ですが、戦後の街に芽吹いた小さな町工場の時代から、当社をここまで育ててもらった岐阜という地域の活性化につながる応援をしたい。そんな想いから、私たちはできる限りの地域貢献をしています。

スポーツ分野では、プロサッカーチームの「FC岐阜」やプロバスケットボールチーム「岐阜スワープス」に加え、「TOYOTA GAZOO Racing」の支援を通してモータースポーツの振興にも注力しています。

この他、未来を担う子どもたちの活動支援として、



シーシーアイカップ



©TOYOTA GAZOO Racing 2024

2020年からは「シーシーアイカップ岐阜県U-9」を毎年開催しています。子どもたちの健やかな心身の育成を願うイベントですが、毎回、会場では子どもたちの元気な笑顔が溢れています。

一方、学術研究の分野においては、研究開発に注力する企業として、新規事業の実現につながる新しい価値を若手研究者の方とともに生み出すことをめざし、そのために必要な技術を確認する研究、および基礎となる科学技術開発に関して助成を行っています。

これからもシーシーアイグループは「継続は力なり」、「新しい可能性に挑戦していく」、「熱意をもって変化し続ける」をキーワードに研究開発と事業活動に一層励み、ステークホルダーの皆様との共創によって、より豊かな社会と持続可能な地球環境の実現をめざしてまいります。

価値創造の歴史

1949年にブレーキフルードメーカーとして創業して以来、幅広い分野に事業領域を拡大し、様々な変革を成し遂げてきました。私たちはこれからも、安心・安全・快適を提供し続け、次のステージに踏み出します。

1949



1949年5月
中央化学工業株式会社 創立

ブレーキフルードメーカーとして誕生

悲しい事故を無くしたいという思いから、「不撓不屈」の精神でブレーキフルードを開発



1970

ゴム事業 (現 産業タイヤ事業)に進出

新たな事業の柱を育てるため、新分野である産業用ウレタン車輪を開発



1977

カーケア用品事業に進出

これまで培ってきたカーケミカルのブレンド技術を活かして、車が庶民の足となった時代背景の中、一般ユーザー向けのカーケア用品事業に進出(現 カーケミカル事業に統合)



1980~1990

海外進出

世界品質の技術を糧に、時代の流れを先読みし、大きな市場をめざし米国に現地法人を設立。その後、台湾、英国、タイに現地法人(または支店)を設立



1980年12月
米国現地法人 設立

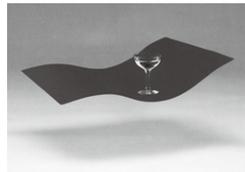


1981年9月
台湾現地法人 設立

1992

制振事業 (現 住設・建材事業)に進出

制振、吸音・遮音などカーケミカルで培った技術を、安全で快適な住環境づくりに展開



2000~

グローバル供給体制の強化

更に世界中で製品を供給できる体制を広げるために、中国(5拠点)、メキシコ、ブラジル、ドイツに現地法人、マレーシアに合弁会社を設立



2005年5月
中国広東省佛山現地法人 設立



2017年7月
ドイツ現地法人 設立

2007~

環境配慮型製品の開発

今まで培ってきた技術を活用し、環境に配慮した製品を開発、販売



2007年6月
下田エコテック(株)をグループ会社化し、グリーストラップ(油脂分離阻集器)の設計・製造・販売を開始



2018年
オイルバニッシュ(油脂分解微生物製剤)の開発、販売を開始

2023~

新たなステージへの一歩

お互いの強みを融合し、シナジーを発揮して日本ケミカル工業(株)、(株)ユーエスシーと共創



2023年8月
日本ケミカル工業(株)グループ会社化
2024年4月
(株)ユーエスシーグループ会社化

売上高の推移

■ 国内売上高 ■ 海外売上高

シーシーアイグループについて

私たちは、顧客第一 (Customer Focus) の研究・開発を積み重ね、グローバルにビジネスを展開しています。

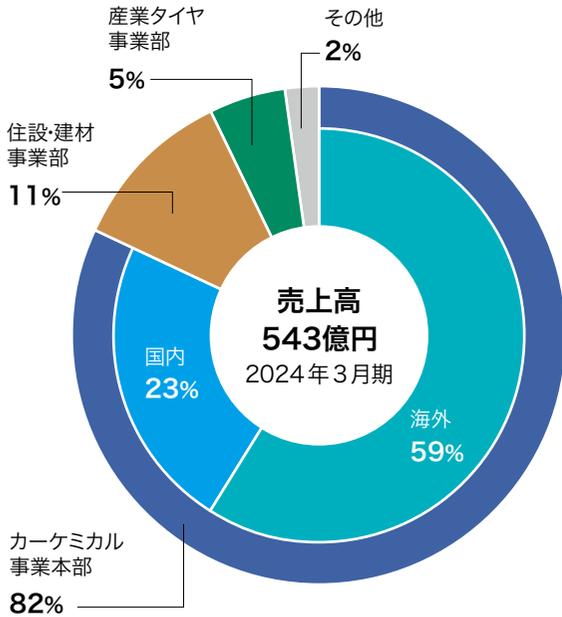
会社概要

シーシーアイホールディングス株式会社

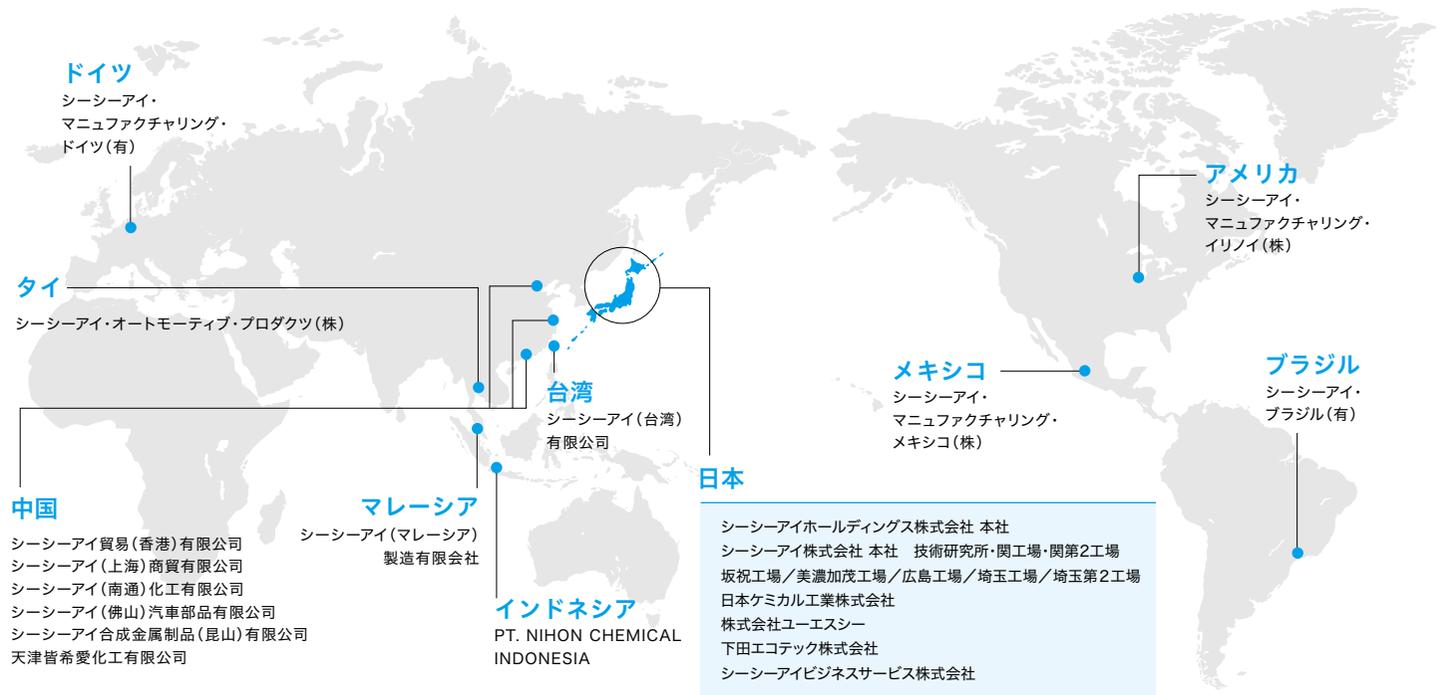
- 本社所在地** 岐阜県岐阜市橋本町2丁目20番地 濃飛ビル12階
- 創立年月日** 2013年(平成25年)4月1日
- 振込済資本金** 1,000万円
- 事業内容** グループ会社の経営管理および付帯業務、不動産の賃貸・管理、基礎研究

シーシーアイ株式会社

- 本社所在地** 岐阜県関市新迫間12番地
- 創立年月日** 1949年(昭和24年)5月31日
- 振込済資本金** 12億6,000万円
- 事業内容** カーケミカル、カーケア用品、樹脂・ゴム製品、防音材・制振材等の開発・製造・販売



グローバルネットワーク(海外 9カ国14社・国内 6社)



シーシーアイグループについて

シーシーアイの主要製品

お客様の「安心・安全・快適」のために、3つの事業領域で、より良い製品・技術をお届けしています。

カーケミカル事業

エンジンクーラント

ゴールドクルーザー ロングライフクーラント

耐熱・耐酸化安定性に優れた防錆添加剤を使用しているため、長期にわたり強力な防錆防食効果を維持。群を抜く耐久力で冷却水システムの腐食によるトラブルを防止します。



カーケミカル事業

ブレーキフルード

ゴールドクルーザー ブレーキフルード

含水しても沸点が緩やかに低下するよう、他製品よりもウェット沸点が高く設計されており、長期にわたり安全走行に欠かせない高沸点を維持します。また優れた防錆防食性能が各種金属を錆から守ります。



カーケミカル事業

ボディコーティング剤

SMART MIST

洗車後の濡れたボディにスプレーして拭くだけでワックス並みにピカピカに。使えば使うほど光沢が増し、汚れの落ちやすいつるつるのボディに仕上がります。



住設・建材事業

油脂分解微生物製剤

オイルバニッシュ

食品工場から出る排水中の油脂を微生物の力で分解処理することで、排水処理施設で優れた効果を発揮する油脂分解微生物製剤です。環境を改善するだけでなく、油脂廃棄処分コストの削減や作業者の負担軽減にも期待が出来ます。



住設・建材事業

防音排水管

音ナイン

住宅のトイレや台所などの排水音を大幅にカットする防音排水管「音ナイン」シリーズは国内トップシェア。戸建住宅からマンション・ホテル・老人ホームなどの耐火建築物まで幅広い建物に対応可能です。また現場で働く職人の作業の手間を考え、加工しやすい構造になっています。



産業タイヤ事業

産業用ウレタン車輪

ウルトランス

シーシーアイのウレタン車輪の大きな特徴の1つが耐久性です。ウレタンと芯金を独自の技術で接着・固定することで剥離を防止し、長寿命化を実現しています。



シーシーアイグループについて

暮らしを支えるシーシーアイ製品

私たちの製品は、私たちの暮らしの様々な場面で活用されています。身近な生活環境の場面より一例を紹介します。



価値創造プロセス

これまで培ってきた技術的成果を活用し、人々の豊かな暮らしに貢献する新たな価値を創造し続けます。



事業部の取り組み

カーケミカル事業本部



取締役
カーケミカル事業本部
本部長

堀 道弘

AUTOMOTIVE CHEMICALS DIVISION

加速するEV化と開発環境や価値観の変化を新たな機会と捉える

カーケミカル事業本部では、エンジンクーラント、ブレーキフルードに関する多くのノウハウの蓄積と、海外のR&D拠点を含めた研究開発体制により、お客様ニーズに沿った製品開発を推進しています。現在、自動車業界は100年に一度の変革期と言われる。自動車メーカー各社が電動化に舵を切る中、カーケミカルにおいても、エンジン車とは異なる発想の技術開発が必要です。また自動車「所有」から「利用」にシフトする中、新しい価値観に合う製品提供により、事業機会を創出したいと考えています。

ESG施策においては、これまで以上に安全志向が高まっており、人にも環境にも優しく、更にCO₂排出量も抑制できる原料開発が急務です。当本部も、石油化学由来の原料をバイオ由来の原料にシフトするため、研究・製品開発を継続しています。今後も、BEV、FCV用製品の開発、サーキュラーエコノミーに資する長寿命製品の開発やリサイクルに取り組むとともに、CSR調達も積極的に推進しています。

事業内容

各自動車メーカーのOEMメーカーとして、主にエンジンクーラント、ブレーキフルードを供給しており、安心・安全をお客様に提供しています。世界中の自動車メーカーにご使用いただけるよう製造、供給体制を確立しています。またカーケア用品も取り扱っており、快適なカーライフを実現すべく自動車ディーラー・専門店向けのプロ用から誰でもカンタンに施工できる製品を提供していきます。

グローバルにおける製造拠点・物流戦略

■お客様の最適化を追求

グローバルに製品を供給する当社にとって、どの地域、拠点で製品を作り、どのようにお客様に届けるのかが非常に重要です。顧客第一を基本にお客様の要求にスピーディーにお応えできる体制を整えています。製品の製造は、当社グループの子会社やライセンスを供与した製造工場のほか、日本ケミカル工業のように新たにグループに迎えた企業とともに考えるなど、最適な方法



常に考え、多種多様な手法で対応しています。また物流については、容器をリターナブルにしたり、パウチパックに変更したりするなど様々な方面から検討し、環境配慮に貢献する製品やコストダウンを展開しています。



環境に配慮したパウチパックの
カーシャンプー

事業部の取り組み

RESIDENTIAL CONSTRUCTION MATERIALS DIVISION

住設・建材事業部



執行役員
住設・建材事業部長
生田 篤彦

制振や吸音・遮音の独自技術を強化、共創して 新たな社会課題の解決に取り組む

住設・建材事業部では、住宅向け防音排水管を提供し、静かで快適な住環境の提供、現場施工の効率化に加え、コスト低減、時間短縮に貢献しています。少子高齢化で住宅市場が縮小する現在、当社の制振や吸音技術の強化に向けて、新製品の開発を進めています。将来的に電動車両など、自動車業界で活用いただける素材の上市をめざし、住宅業界や素材メーカーと共創し、可能性を追求しています。また今後の課題として、当社の防音排水管技術のノウ

ハウを用いて、海外も含めた新しい市場開拓を進めていきます。ESG施策においては、工場の稼働精度の向上に努め、廃棄物の削減にも引き続き注力する方針です。更に梱包材の脱プラ化や、通い箱の活用なども検討すべき時期だと思えます。今後も、さまざまな事業者との対話を継続しながら、次世代事業の柱の確立に努め、予測の難しい環境にあっても、安心・安全で、環境にも配慮した高品質な製品・サービスをお届けしていきます。

事業内容

音・振動エネルギーを吸収できる素材、遮音材と塩ビ管を一体化した防音排水管などを取り扱っています。戸建て住宅からアパート・マンションまで様々な分野のお客様へのご提供が可能です。お客様の住環境の改善に加え、現場施工の手間や時間の短縮につながる製品のご提案も積極的に行っています。また油脂を分解する微生物製剤も取り扱っています。

制振・吸音の基礎技術を生かし、新たな価値を提供

■ 独自技術を生かし、新たな市場を開拓

騒音や振動を抑える機能を持つ制振材は、住宅の他、様々な場所で活用されてきました。新たな市場開拓を模索する中、独自技術を生かし、形状を問わず使用できる制振塗料を開発し、鉄道や工場設備等の騒音や振動を低減しています。音や振動対策に必要な素材と技術を見極めるため、音を可視化できる装置を導入。この装置では、最も大きな音が出ている場所を周波数で測定することが可能であり、結果をもとに最適な騒音対策を実現させています。当社は騒音の特性に合わせた柔軟な空間づくりにおいて、これからも新たな価値を提供していきます。

騒音源をリアルタイムにカラーマップで可視化できるシステム



優れた防音性能を発揮し、

複雑な形状にも塗れる

塗料タイプの制振材



事業部の取り組み

産業タイヤ事業部



執行役員
産業タイヤ事業部長
澤木 泰浩

INDUSTRIAL TIRES DIVISION

多様化するニーズに対応できる製品・サービスを提供し、CO₂排出量削減の実現もめざす

産業タイヤ事業部では、自動車や半導体の製造現場で使われる、高性能で高品質なウレタン車輪を供給しています。各種製造設備の自動化や、ロボットなどを導入した物流システムの発展により、ウレタン車輪が使われる環境はますます多様化しています。耐久性や耐摩耗性、導電性に対する要求も高まっており、接着材の開発ならびに接着工程も研究を継続中です。またスピーディーな課題解決につなげられるよう、お客様との直接対話を重視しています。昨年、品質向上に向けた取り組みを更に強化しました。

今後は、競争力向上をめざし、製造や検査の自動化の早期実現に努めます。ESG施策においては、CO₂排出量削減に注力し、加熱しなくても固まる常温硬化型ウレタンを、原料として利用することも検討しています。お客様に対してウレタン巻き直しにおける金属製品の再利用を提案するなど、環境配慮型製品・サービスの開発を強化しています。今後も、時代に求められる高品質な製品・サービスの提供により、信頼される企業をめざしていきます。

事業内容

熱硬化性ウレタンの中でも注型ウレタンをホイールに接着したウレタン車輪を主に取り扱っています。安心・安全な走行に必要な不可欠なウレタンの接着性は他に負けないアドバンテージを持っており、マテハン機器や遊戯機器に多く使用されています。環境に優しい(抗菌性・導電性など)ウレタン車輪も品揃えし、設計段階からご要望をお伺いし、小ロットから対応しています。

有名テーマパークからも絶大な信頼を得る「ウルトランス」

■時速150キロで走るジェットコースターの安全を守る

最高速度は時速150キロにもなるジェットコースターは、走行時、車輪に高い負荷がかかります。時として人命にかかわることもあるため、僅かなタイヤの異常でも交換されるなど、高い安全性が求められる乗り物です。当社では、お客様のご要望に応じた耐久試験を自社設備で実施しており、強度についてもデータに基づいたご報告をさせていただいています。そのため、優れた動的性能と耐久性を持ち、お客様のご要望にもマッチした車輪のご提供が可能となっています。更に車輪の交換頻度を減らし、ランニングコストの削減にも貢献。信頼性の高さから数多くの有名テーマパークで採用されています。



優れた動的性能と耐久性により
安全な走行を実現する

事業部の取り組み

研究開発部



執行役員
技術統括・品質保証部・
研究開発部 担当
カーケミカル事業本部
技術本部 本部長

森 泰昭

R & D DEPARTMENT

次世代の事業開発と環境配慮型製品の開発、 脱炭素・脱石油の実現に向けた研究を推進

研究開発部では、次世代を担う新たな事業開発と、各事業の戦略推進の支援を行う部門です。現在は持続可能な社会の実現に貢献するため、石油化学製品の代替としてバイオ由来の原料など、新たな開発に取り組んでいます。また、大学との共同研究に加え、2021年度に開始した「研究助成プログラム」により、幅広い視野で研究テーマを選定し、若手研究者や学生の支援を継続しています。地域貢献としては、国立の研究所や地元の農園とともに、

岐阜にゆかりの農作物から新しい品種の開発を進めるなど、持続可能な農業という社会課題にも挑戦中です。地球環境の変化に対し、脱石油・脱炭素社会の実現は、真剣に取り組むべき課題です。今後も化学メーカーのR&D部門として、常に挑戦する意気込みと情熱を大切にし、研究開発方針である「化学は世のため、人のため。」を実現し、地球環境に貢献する製品開発に取り組み続けます。

事業内容

事業本部、事業部製品の戦略推進の支援、基礎研究や生物が持つ多様な機能を人々の暮らしに役立てるための研究開発を行っています。これまでに生活の質を向上させ健康に貢献できるサプリメントの開発や、水・土壌の汚染を浄化することで地球環境の保全につながる研究開発に取り組んできました。研究分野に縛りがないため幅広い分野へ挑戦でき、また大学との共同研究も行い日々新たな可能性を追求しています。

ふきのとう抽出エキスの開発

■ 植物の機能性成分を研究

シーシーアイでは、植物に含まれている機能性成分の研究を続けており、これまでに約250種類もの植物エキスについて効果を評価してきました。中でも、ふきのとうに含まれる機能性成分「ペタシン」が、病気の予防に高い効果を発揮することを見出し、大学と共同で開発を進めています。また、ふきのとうの品種改良にも取り組んでおり、ペタシンを多く含む品種の開発に成功しています。シーシーアイで作出したふきのとうを安定して供給するため、植物工場での効率の良い栽培技術も確立しました。

① 病気の予防が期待できる機能性成分をふきのとうから発見



② 植物工場での安定した栽培



身近な植物の機能性成分を研究し、
健康寿命の延伸に貢献します

特集1 持続可能な暮らしの新しいタネをまく

BEV・FCV用
製品

シーシーアイは、研究開発方針である「化学は世のため、人のため。」を基に、「継続は力なり」「新しい可能性に挑戦していく」「熱意をもって変化し続ける」の3つをキーワードに、持続可能な暮らしの実現のため、新たな製品・技術開発へ挑戦し続けます。

鉱油分解用
微生物製剤

制振材・
防音材

脱石油由来
原料

ふきのとう
抽出エキス

省エネ・
長寿命
ウレタン車輪

基盤技術とコア技術



研究開発助成プログラムの実施

シーシーアイは新規事業の実現につながる新しい価値を若手研究者の方とともに生み出すことをめざし、そのために必要な技術を確認する研究、およびその基礎となる科学技術開発に対して助成を行っています。近年では研究テーマを特定せずに、幅広い分野で助成を行っています。

2023年度
採用テーマ件数

12件 (名古屋大学
岐阜大学)

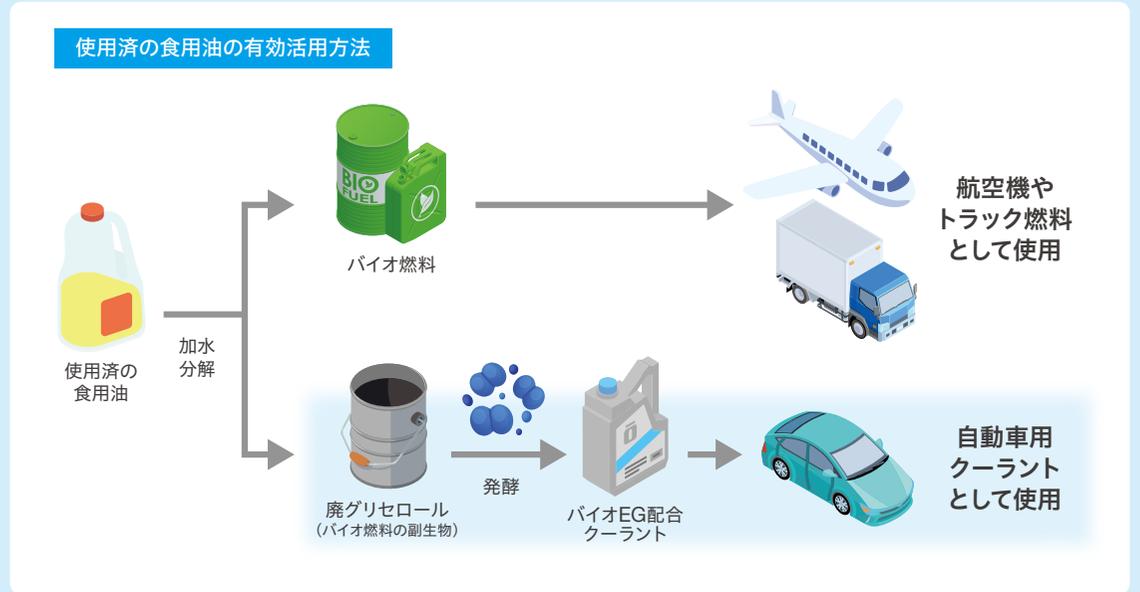
特集1 持続可能な暮らしの新しいタネをまく

CASE

石油由来原料を使用しない クーラント原料の 生産技術の開発

石油に頼らないモノづくり

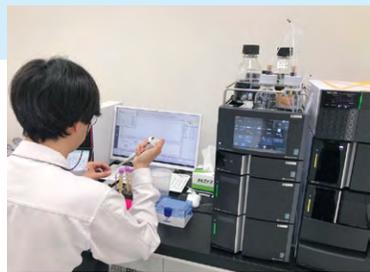
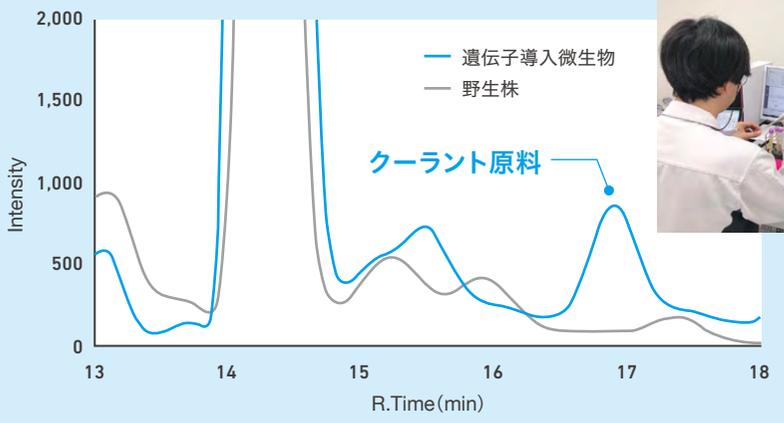
シーシーアイの主要製品である自動車用クーラントは、石油由来のエチレングリコール(EG)を主成分として製造されています。そのため、CO₂排出削減の観点から、石油以外の物質からEGを生産する技術が求められています。シーシーアイでは、「バイオモノづくり技術」を駆使し、微生物の発酵によってバイオマス資源からEGを生産する技術の開発を進めています。



技術開発の歩み

Step 01	原料の選定	有効利用されていないバイオ燃料の副産物を原料に選定
Step 02	生合成経路の設計	代謝経路を網羅的に検索し新規な生合成経路を設計
Step 03	ホスト微生物の選定	物質生産に適した微生物を選定
Step 04	遺伝子のスクリーニング	膨大な数の候補の中から最適な遺伝子を探索
Step 05	遺伝子導入微生物の作製	探索した遺伝子を導入した微生物を作製
Step 06	生産試験	グリセロールからクーラント原料の生産に成功

生産試験における分析結果



遺伝子導入微生物では、クーラント原料が生産されている事が確認できる

環境に配慮した技術開発を通して、持続可能な社会の実現に貢献します

サステナビリティの取り組み

公正で誠実な企業活動を通じて「持続可能な社会の実現」と「企業価値向上」の両立を図り、企業としての社会的責任を果たしていきます。

サステナビリティ基本方針

シーシーアイグループサステナビリティ基本方針(抜粋)

私たちシーシーアイグループは、企業理念に基づき、すべてのステークホルダーと責任ある対話を行い、公正で誠実な企業活動を推進し、「持続可能な社会の実現」と「企業価値向上」の両立をめざし、社会的責任を果たします。

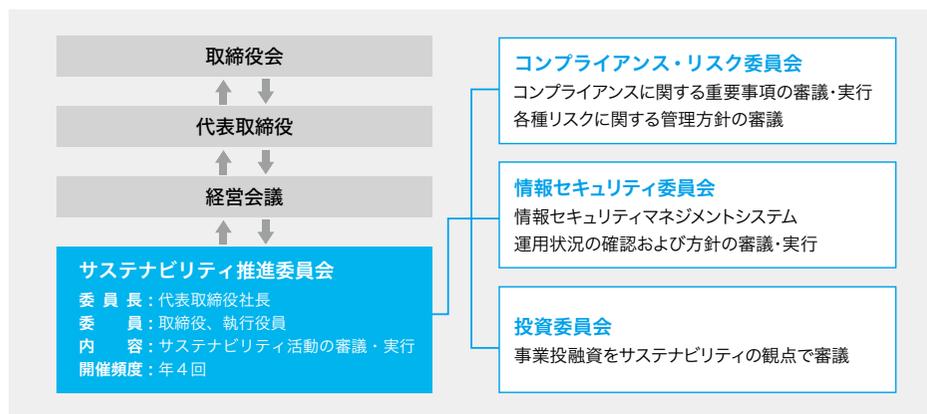
[シーシーアイグループサステナビリティ基本方針\(全文\)](#)

サステナビリティ推進体制

シーシーアイグループは、サステナビリティ活動を推進するにあたって、2022年4月に代表取締役社長を最高責任者とする「サステナビリティ推進委員会」を設置し、その下部組織として「コンプライアンス・リスク委員会」「情報セキュリティ委員会」および「投資委員会」の専門委員会を設置しました。定期的に委員会を開催し、各種の活動に取り組んでいます。

委員会の実施

- グループのサステナビリティに関する活動方針策定
- ESG、SDGs活動のモニタリング
- ステークホルダーへの情報発信と対話
- 社内浸透
- 取締役会への報告



社外からの評価・認証の取得

- 国際的な評価機関であるEcoVadis社による2023年のサステナビリティ評価において「Bronze Medal」を獲得
- 2023年「ぎふSDGs推進パートナー」登録制度にて「ゴールドパートナー」認定



教育の実施

シーシーアイは、サステナビリティ経営を推進していくため、世の中の動向や当社の取り組み状況を知り、意識の向上に取り組んでいます。

- サステナビリティ基本知識研修
- ガバナンス研修



サステナビリティ基本知識研修の様子(2023年4月)

参加型社会貢献活動の実施

シーシーアイは、従業員が自発的に参加できる社会貢献活動を実施し、従業員のサステナビリティ意識の向上に取り組んでいます。

- 関工業団地、迫間川付近清掃活動
- ペットボトルキャップを回収し、児童の医療支援に貢献
- 使い捨てコンタクトレンズケースを回収し、就労支援等に貢献
- 古本を回収し、児童の学習支援に貢献
- 日用品・食品を回収し、生活困窮者の支援に貢献
- 令和6年能登半島地震への支援(マッチングギフト)
(日本ケミカル工業(株)、下田エコテック(株)とともに実施)



関工業団地内清掃活動の様子(2023年12月)

シーシーアイグループのマテリアリティ

シーシーアイは、環境・社会・経済の変化や社会的課題を的確に把握、分析しサステナビリティ活動におけるマテリアリティ(重要課題)を選定しています。これらの課題を事業活動と結び付けるため、各部門のKPIとして設定し、世界の人々に安心・安全・快適な環境を提供し続けていきます。

ESG優先課題特定のプロセス



サステナビリティの取り組み

ESG優先課題と実績

達成率の凡例 ◎:達成率100%超 ○:達成率80~100% △:達成率80%未満

活動領域	重要課題	優先課題(2030年度までの具体的な取り組み)	2023年度KPIの達成状況	ESG	
事業活動	安心・安全・快適なモビリティ環境の提供	次世代モビリティ向け製品の開発	メンテナンス軽減製品の開発	○	E
		新たな技術を駆使した環境配慮製品、サービスの提供	制振・吸音材導入による住環境の向上 制振・吸音材導入による住環境以外の環境の向上 オイルバニッシュ(油脂分解微生物製剤)の拡販	○ △ △	E E E
	サーキュラーエコノミーへの移行	使用済製品の回収～再資源化のビジネスモデルの構築	廃棄LC、BF量(国内)の10%(1万kL)を回収、再資源化し活用	○	E
			使用材料の見直し・切り替え	○	E
		リサイクル可能な素材への切り替え(廃棄物の削減)	リユース事業の拡大	◎	E
			工場廃液量(2019年)の50%を再資源化(削減を含む)し活用する	○	E
	脱石油由来原料製品の開発	プラスチック削減の取り組み	○	E	
	健康、生活の質向上	特定化学物質、環境負荷物質の管理および使用の削減～使用ゼロ	量産化技術の確立	○	E
			工程等の見直しによる特定化学物質・環境負荷物質の使用ゼロ 環境問題を引き起こす事故・汚染ゼロ	○ ○	E S
	健康、生活の質向上	スポーツ振興等を通じて地域社会貢献活動の推進	文化・芸術・スポーツ活動への協賛	○	S
全社活動	CNの実現	Scope1、2対象CO ₂ 排出量 2030年度に2019年度比30%削減	CO ₂ 削減エネルギー対策プロジェクト活動	◎	E
		Scope3の算定、監視	グローバルのScope3 算定を実施	○	E
	多様な働き方の実現	従業員エンゲージメントの向上	エンゲージメントサーベイのスコア向上 多様性の実現 職場環境改善、制度の見直し	— (スコア集計見直し実施のため)	S
		業務可視化とデジタル化による生産性向上、ペーパーレス化	デジタル化による生産性向上、ペーパーレス化を推進	○	S
人権に対する取り組み	人権DDプロセスの構築	CSR調達ガイドラインに則した、人権DDプロセスの構築	○	S	
	サプライチェーンにおける人権の取り組み	サプライチェーンにおける人権の取り組みを推進	◎	S	

※上表は2023年度の実績を示す

TOPIC

サステナビリティ推進担当ミーティング

シーシーアイでは、2022年4月よりサステナビリティ経営の全社浸透を目的とした「サステナビリティ推進担当」による浸透活動を行っています。メンバーは各部署からの代表者20名程で構成され、月に1度「サステナビリティ推進担当ミーティング」を開催しています。ミーティングでは、サステナビリティについて理解、共感し、更に実践をしてもらうには、どのような浸透活動が必要なのかを個人で考え、自部署内での推進活動とそれにより得られた効果についてメンバーで共有しています。また、2023年度の目標として、従業員が自分の仕事がどのように社会課題解決に貢献しているのか理解できている状態をめざし、様々な教育を実施しました。



サステナビリティ推進担当ミーティング



各部のペーパーレス化の取り組みを共有

ESG活動報告

環境

Environment



シーシーアイグループは、「2050年カーボンニュートラル」に向けて、温室効果ガスの削減、環境に配慮した製品の提供やシーシーアイグループならではの技術を活かし、地球環境の保護活動に積極的に取り組んでいきます。

基本的な考え方

シーシーアイグループは、企業理念に基づき、当社が社会に影響を与える立場であることを理解し、地球環境の保護、人々の健康を確保、持続可能な社会の実現を目標に、継続的に取り組みを推進します。

環境

▶環境マネジメントシステム

シーシーアイグループは、全従業員が共通の認識をもって環境対策に取り組むべく、ISO14001に基づく環境マネジメントシステムを導入し、環境への取り組みについて計画し、実施・レビューを行い、継続的な改善を進めています。認証未取得の生産拠点においては、認証の取得に努めていきます。

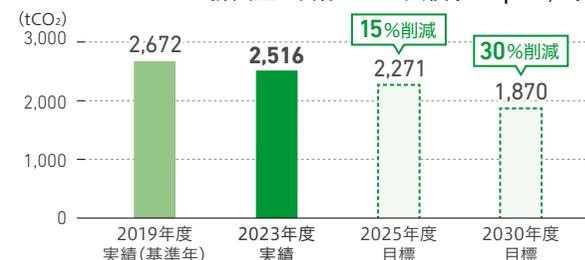
国内外における ISO14001 認証取得 **8** 拠点 (2024年3月時点)

気候変動への取り組み

▶温室効果ガスの削減

シーシーアイは、温室効果ガス排出量削減の取り組みとして省エネルギー活動や再生可能エネルギーの利用を推進しています。Scope1,2における自社CO₂排出量を2030年度までに2019年度比で30%削減するという中期目標を設定しています。活動を促進するためプロジェクトを発足し、生産活動における排出量削減のためアクションプランを設定し、排出量削減に取り組んでいます。また、2022年度よりグループ会社においてもCO₂排出量の算定を行い、今後もシーシーアイグループ全体で取り組みを進めていきます。

シーシーアイのCO₂排出量の目標および実績 (Scope1, 2)



■CO₂排出量削減に向けた主な取り組み

- LCA算定勉強会の開始
- 社内カーボンプライシング (ICP) の導入
- 全社用車のハイブリット化 (2025年まで)
- 作業工程の見直しによる設備稼働時間の削減

製品の環境貢献

▶環境配慮型製品の開発

【環境に配慮した容器梱包への転換】

カーケミカル事業本部では、容器梱包をプラスチックから紙に切り替え、プラスチック使用量を削減しています。また、2020年12月以降に開発した製品は、FSC認証 (責任ある木質資材を使用) を受けた紙材を使用しています。これからも環境保護を目的とし、環境に配慮した容器梱包への転換に取り組み、プラスチックの抑制および廃棄物の削減を図っていきます。

プラスチック 使用量

36%削減

(写真の製品の場合)

※プラスチック使用量は、液体重量あたりのプラスチック重量から算出した数値 (当社従来品比較)



ESG活動報告 環境

【油脂分解微生物製剤の拡販】

油脂分解微生物製剤「オイルバニッシュ」は、食品工場などの排水中に含まれる油脂を強力に分解し油脂廃棄量を大幅に削減します。また、排水中のn-Hex(ノルマルヘキサン抽出物質含有量)を大幅に削減し、油脂の腐敗等による悪臭を低減し環境保全にもつながります。2018年から販売を開始し、食品工場で導入され、その効果が実証されています。今後も、更なる販売促進により、廃棄物の削減に貢献していきます。



オイルバニッシュ

化学物質管理体制

▶化学物質管理体制の構築

シーシーアイは、化学物質の審査および製造等の規制に関する法律、特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律、労働安全衛生法、毒物および劇物取締法等多岐にわたる法令を順守しています。また、化学物質による人、環境への悪影響を未然に防ぐため、各部門と協力し合い、化学物質の管理体制の構築、作業工程の見直し等による環境負荷物質の使用量削減に取り組んでいます。

サーキュラーエコノミーの実現に向けて

基本的な考え方

シーシーアイグループは、行動規範に基づき、サーキュラーエコノミーの実現に向けて活動していきます。製造過程で発生する廃棄物の削減を図るとともに、リサイクル資源を有効活用し新たな資源投入を抑えた製品生産を推進していきます。また、自社製品の再資源化と活用に向けて取り組んでいきます。

▶廃棄物の抑制

【産業廃棄物の廃棄方法の見直しによる廃棄物の削減】

シーシーアイは、リサイクルが出来ていない産業廃棄物の廃棄方法の見直しを実施しています。日常業務で発生する廃棄物の一部を資源としてリサイクルし、製造過程で発生する産業廃棄物の一部をマテリアルリサイクル化しました。シーシーアイ・マニュファクチャリング・ドイツでも廃棄物の分別を推進し、リサイクル率の向上を図っています。また、グローバル全体で紙使用量も削減する取り組みを推進しており、今後も廃棄物の削減活動に積極的に取り組んでいきます。



マテリアルリサイクル率
(シーシーアイ)

69%

(2023年度)



紙使用量削減率
(シーシーアイ)

35%

(当社2021年度比)

【端材量の削減】

住設・建材事業部では、防音排水管で使用する塩ビ系防音シート材料のサイズ変更を行い、1枚の材料から製品に使用する防音材の割合を増やし、廃棄物を削減しました。



原材料使用料

33%削減
(当社2022年度比)

【工場洗浄水の再利用、削減】

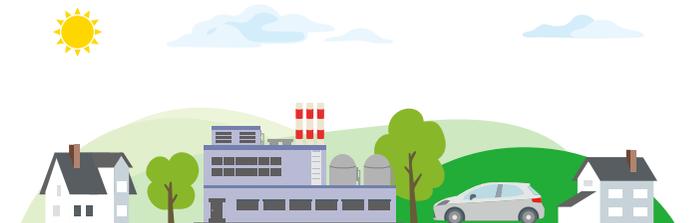
カーケミカル事業本部では、工場内タンクの洗浄水の削減、再利用に取り組んでいます。今後はシーシーアイとして水使用量の削減目標を設定し、継続的な水資源の確保を通じて、持続可能な社会に貢献していきます。



洗浄水再生率

12%

(2023年度)



ESG活動報告

社会
Social



シーシーアイグループは、行動規範に基づき、安全を最優先した行動、お客様の満足度の向上に努めていきます。また、地域社会と積極的に交流を行い、事業を活かした活動や社会の課題に応える活動を通して、持続的な社会貢献をめざしていきます。

品質

基本的な考え方

シーシーアイグループは、企業理念に基づき、お客様と責任ある対話を行い、お客様の品質要求を超えるように努め、お客様にとって安心・安全・快適な製品・サービスを提供します。

安全で高品質な製品をお届けできる
仕組みづくりにグローバルで取り組む

製品の安全品質を支えるため、グローバルを含め一貫した品質保証体制を構築。グローバル共通の基幹システム、品質システムの導入も進めており、これにより生産工程管理の見える化を実施し、世界中どこの工場でも同じ手法で品質管理を行うことで、不具合品の早期発見、早期解決、再発防止に向けた適切な対策が可能となっています。将来的な目標は、目視検査をAI等の活用で自動化し、基幹システム等と自動連係させることでエラーを最小化することです。今後もグローバル全体で更なる高品質なモノづくりに取り組んでいきます。



執行役員
技術統括・品質保証部・
研究開発部 担当
カーケミカル事業本部
技術本部 本部長
森 泰昭

品質保証体制の取り組み

シーシーアイグループは、品質マネジメントシステム (ISO9001) やIATFの認証を取得し、継続的な改善を推進しています。品質管理の標準化については、グローバルの各拠点と毎月品質会議を行っています。製造現場では、定期的に品質や生産性向上に向けた教育を実施し、すべての作業手順の見える化を進めています。

お客様のクレームに関しては、お客様の安全を第一として迅速かつ適切に対応しています。今後も当社として製造過程の中で品質を担保できる仕組みづくりの強化を図っていきます。

品質マネジメントシステム外部認証(2024年3月時点)

ISO9001 認証 9拠点 IATF16949 認証 4拠点

教育の実施

シーシーアイは、品質教育を定期的に全従業員に実施しています。製造部門ではコンサルタントとともに、品質意識・生産性向上を目的とした、改善活動を行っています。これからも継続的な教育を行い、従業員の品質への意識を高めていきます。

教育によって改善されたシーシーアイ全工場の生産性向上時間



お客様とともに

顧客満足度向上への取り組み

シーシーアイは、顧客満足度を図るために顧客窓口へ寄せられるお客様の声や定期的に行っている「お客様満足度調査」でのアンケートのご回答を真摯に受け止め、その貴重なご意見を各部門の改善活動へつなげています。また顧客窓口担当者を対象に電話応対マニュアルを整備し、電話応対スキル教育を実施しています。今後も、お問い合わせに対して、より一層のサービス向上に努めていきます。

取引先様とともに

CSR調達の取り組み

シーシーアイは、従来の品質・性能・価格・納入条件を重視した調達活動から自然・労働環境・人権等といったCSR要素も重要視した調達活動に向けて取引先様(サプライヤー)とともに取り組んでいます。シーシーアイは事業の持続性に影響を及ぼす可能性のあるリスクを低減することを目的にCSR調達ガイドラインを制定し、取引先様にご理解していただいた上で、サプライチェーン全体に展開しています。また、その状況を確認するため、CSRガイドラインの順守状況や紛争鉱物調査等のアンケート調査(SAQ)を実施し、取引先様とともに事業の持続性を確保しています。

ESG活動報告 社会

社会貢献活動

基本的な考え方

シーシーアイグループは、企業理念に基づき「地域貢献」「人材育成」「環境保全」「災害支援」の重点分野で役員及び従業員の積極的な社会貢献活動への参画を通して、人々の豊かな暮らしの実現、持続可能な社会への貢献を目指します。

【ロイヤル劇場 思いやるプロジェクト】

2023年12月、岐阜市柳ヶ瀬商店街にあるロイヤル劇場の「思いやるプロジェクト」に協賛しました。このプロジェクトは、国内唯一無二の35ミリフィルム専門映画館であるロイヤル劇場が老朽化により存続の危機に瀕している状況を応援するためのものです。協賛金は劇場のメンテナンス費用として活用され、劇場の存続に貢献しました。また、同劇場で12月23日に上映された大林宣彦監督作品「ふたり」のイベントにおいても支援、来場者には当社製品を配布し、大変喜んでいただきました。今後も文化的財産を保護し、地域社会に貢献するための活動を継続していきます。



ロイヤル劇場

■主な協賛先一覧(2023年度)

▶モータースポーツへの支援

- ・ TOYOTA GAZOO Racing
- ・ ホンダモビリティランド
- ・ ホンダモビリティランドレーシングスクール
- ・ AUTOBACS RACING TEAM AGURI

▶地域スポーツへの支援

- ・ プロバスケット「岐阜スウィープス」
- ・ プロサッカー「FC岐阜」
- ・ モトクロス土屋希選手
- ・ ふどうの森トレイルラン
- ・ 高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン
- ・ 岐阜県サッカー協会4種(小学生チーム)
- ・ 柴田ドリフトレーシングチーム

▶学生への支援

- ・ 自動車技術会学生フォーミュラ
- ・ 岐阜大学フォーミュラ
- ・ 岐阜大学iGEM(学生向けの世界合成生物学大会)

▶地元文学への支援

- ・ ART AWARD IN THE CUBE 2023
- ・ 大林宣彦監督作品35ミリフィルム上映イベント

【関ジモト大学】

2021年度より岐阜県関市のNPO法人を通じて、地元の高校生を対象とした教育支援活動を毎年行っています。



関ジモト大学 教育支援活動の様子(2023年8月)

2023年8月にオンラインでシーシーアイのSDGsの取り組みについて説明を行いました。これからも未来を担う学生の教育支援に貢献していきます。

TOPIC

岐阜県スキー連盟フリースタイル部

2023年度より岐阜県スキー連盟フリースタイル部に協賛し、地元選手や未来を担う子どもたちの育成を支援しています。フリースタイルは、選手が雪原をジャンプや回転しながら滑走する競技で、速度よりも技の難易度や技術を競うことが特徴です。2024年3月に開催をしたJOCジュニアオリンピックカップ2024 全日本ジュニアスキー選手権大会では、参加賞としてTシャツや当社のロゴ入りグッズを提供しました。これからも様々なイベントを企画し、地元スポーツの活性化も願い、活動を盛り上げていきます。



岐阜県スキー連盟との締結式の様子(2023年11月)

【シーシーアイ・マニュファクチャリング・ドイツの活動】

2023年5月に地域コミュニティへの貢献として、シーシーアイ・マニュファクチャリング・ドイツがあるドルマーゲン市のシュトゥルツェルベルグ消防団が当社の建屋を使用し、消防訓練を行いました。これからも地域社会に貢献できるよう、このような活動を続けていきます。



シュトゥルツェルベルグ消防団消防訓練の様子(2023年5月)

【シーシーアイ・オートモーティブ・プロダクツ(タイ)の活動】

2023年6月に当社工場のある工業団地管理会社主催で開催された安全運転キャンペーンに協賛し、視界が悪い雨の日の運転を安全・快適にするウインドウケミカル等のカーケア用品を地域工業団地を運営するWHA Corporation PCL様に寄付しました。これからは事業を通じて、安全運転を促進する活動を支援していきます。



WHAにカーケア用品を寄付する様子(2023年5月)

特集2 企業理念浸透プロジェクト

「企業理念の探究」から「企業理念の浸透」へ

シーシーアイでは、2022年6月に「企業理念探究プロジェクト」が発足し、プロジェクトメンバー25人で、会社の根幹となる企業理念を探究し、これから先語り継がれる新しい価値を見つけ、存在意義を言語化し、「理念の伝道師」となって浸透を図る方針を策定しました。

各タスクにおいて、経営層へ発表をし、経営層の意向を確認し進めていきました。言語化のプロセスにおいては、メンバーの意見をまとめるために、何度も議論を重ねました。本プロジェクトを通して、自社の歴史や現在の強み・今後の課題、今後の進むべき方向性について学び、自社理念への理解を深めるとともに、全社視点での分析やタスク設計～遂行の仕方を学びました。



企業理念再構築プロセス

1	2022年6月 中堅・若手メンバー25人で構成された「企業理念探究プロジェクト(PJ)」が発足
2	2022年6月~12月 経営層、事業部とともに、将来のあるべき姿を抽出 ▶シーシーアイの歴史とこれまでの強みと課題の整理 ▶事業環境変化の整理
3	2022年11月~2023年2月 再構築理念案を作成 ▶将来のあるべき姿を示すキーワードの盛り込み ▶意味がわかりやすい言葉への変更
4	2023年3月 経営層にて再構築理念案を検討し、議論の末、企業理念探究PJ案を採用することで決定
5	2023年5月31日 企業理念を再構築

新たに再構築した企業理念

これまでの企業理念

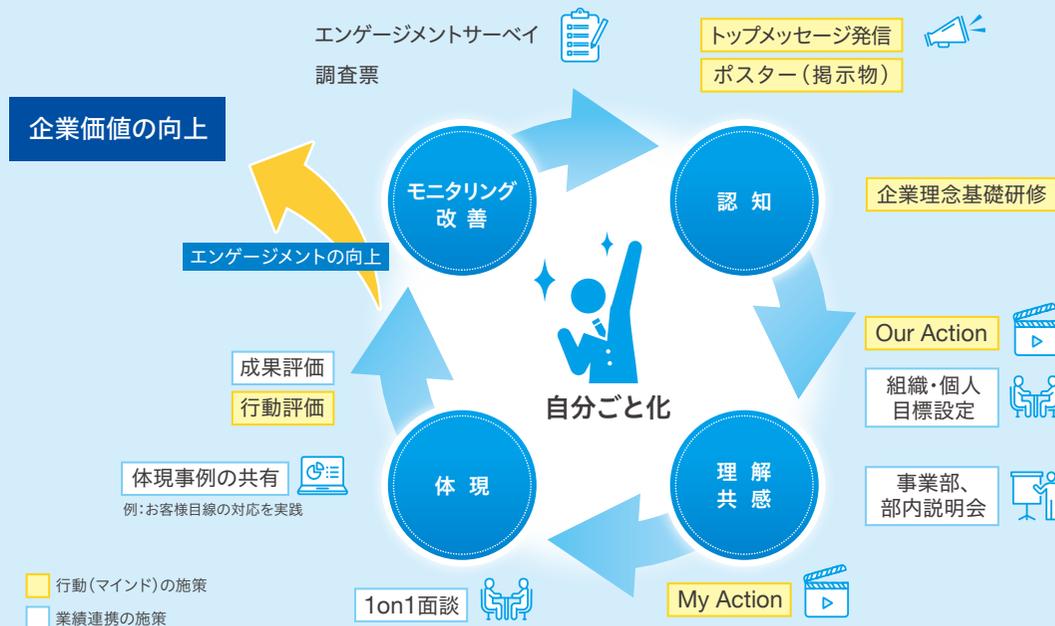
21世紀の豊かな環境の創造
技術的成果の知的活用



Our Purpose 私たちの存在意義
「新しい」を共創し、
世界に安心・安全・快適を提供します
Our Values 私たちの大切な価値観



企業理念の実践を支える取り組み



特集2 企業理念浸透プロジェクト

2023年度から、新たに再構築した企業理念のもと、私たちのパーパス(存在意義)の実現をめざし、従業員一人ひとりが企業理念を理解し、共感し、実際の行動に移すための施策を検討し、様々な取り組みを実施しています。これらの取り組みを通じて、従業員自身が成長、会社が成長し、お客様や社会に貢献できる企業をめざします。

企業理念浸透施策
実行までのプロセス

1 2023年6月

「企業理念探究PJ」の想いを引き継ぎ、社内公募を含む中堅・若手メンバーで構成された「企業理念浸透PJ」が発足



2 2023年6月～8月

発信、教育、評価チームに分かれ、仕組みや制度の設計～試行を実施し、経営層に中間報告



3 2023年9月

経営層に最終浸透施策案を提案し、決定



4 2023年10月～(継続中)

企業理念浸透施策を実行、改善

プロセス

認知

企業理念の存在、文言を知っている(唱えられる)

理解・共感

企業理念の意義と意味を理解し、共感している

体現

実際に行動に移している

発信

- 企業理念・体系図のビジュアル化
- トップメッセージの発信
- ポスター(掲示物)の制作
- 唱和
- Our Action(企業理念冊子)の制作

教育

- 企業理念経営研修(対象:役員、部長)
- 企業理念基礎研修
- 事業部・部内説明会
- My Actionの設定
(一人ひとりが業務で注力する行動)

評価

- 体現事例の共有
- 評価項目の見直し

施策

企業理念冊子の制作
「Our Action 私たちのパーパス
(存在意義)の実現を目指して」

全従業員の進むべき方向性の認識を統一するために、私たちが取るべき行動をイラストを用いてわかりやすく示した冊子を制作しました。

何かの判断や選択に迷った時に、立ち返る指針として冊子を活用しています。

Our Action

私たちのパーパス(存在意義)の実現を目指して

企業理念基礎研修の実施
(実施頻度:1回/年 対象:全従業員)

再構築した企業理念に込められた思いや会社の歴史、DNA、そして体現事例をオリジナル動画を用いて探究し、部署内で意見交換しながら企業理念の理解を深める研修を行いました。参加者の9割以上から、有意義な研修であったという声が上がりました。



体現事例の共有

各々が企業理念を体現するために実際に行った「Change」「Create」「Innovate」の取り組みを社内SNSツールを用い全社に共有しています。投稿記事を見て、自身にはどのような行動が出来るかを考えるきっかけとし、今後の活動につなげています。また従業員同士で称賛をし合い、会社を盛り上げています。

【企業理念/体現事例を共有しよう】

～企業理念を浸透させ、みんなでCCIを盛り上げよう～

今回は●●部での体現事例をご報告させていただきます

ESG活動報告 社会

社員とともに

基本的な考え方

シーシーアイは、企業理念に基づき、教育制度を拡充させ人材育成に取り組んでいます。また行動規範に基づき、全従業員が仕事と生活の調和を図り、個人の能力を最大限に発揮できる職場をめざしていきます。

時代に則した制度を整備し、多様な人材が活躍できる職場をめざす

2019年に人事制度、等級制度をより細やかな評価に刷新しました。それにより各等級における役割が具体的になり、公平、公正な評価基準が明確になりました。現在は新たな等級制度に基づく階層別研修や新入社員、外部講師によるスキルアップ研修、ビジネス英会話研修等を実施しており、ステップアップに向けた、社員のモチベーションアップに直結しています。また、誰もが働きやすい職場環境の土台作りを進めており、障がい者採用にも門戸を広げ、定年年齢を60歳から65歳への延長にも取り組んでいます。今後も、多様な人材がお互いの価値観や多様性を尊重し、個人の能力が発揮できる職場をめざします。



常務取締役
総務部・財務部・
情報システム部 担当

山田 信弘



▶人材育成

シーシーアイは、教育制度の拡充の他、従業員が業務に関する資格を取得することを奨励するため資格取得報奨金給付制度を定めており、能力開発およびキャリアアップの機会を公平に提供しています。

■研修一覧

階層	階層別研修	テーマ別研修	部門別研修	自己啓発
管理職	新任部長研修 新任グループマネージャー研修	企業理念 サステナビリティ		
中堅社員	新任リーダー研修 昇格時研修	人権 行動規範 コンプライアンス 安全衛生 環境・品質 情報セキュリティ 避難訓練	各部門で実施	社外セミナー 社内勉強会 ビジネス英会話研修 eラーニング 資格取得報奨金 給付制度
若手 新入社員	3年目研修 新入社員研修	ハラスメント LGBTQ* メンタルヘルス 5S 安全運転 救命講習		
内定者	内定者研修(入社前)			

※LGBTQ: 性的マイノリティの総称

▶働きがいのある職場づくり

【多様な働き方】

シーシーアイは、スーパーフレックスタイム制や副業・兼業制度を導入、2023年度には退職した社員に対する再雇用制度(ジョブリターン制度)を導入し、何らかの事情で当社を退職した社員の復帰を可能としました。2020年度にはテレワークの導入、2022年度には更なるシステムのクラウド化を実施し、テレワークが可能となる職種を広げました。また場所にとられない柔軟かつ効率的な働き方を推進するフリーアドレススペースを導入し、従業員が安心・快適に働ける環境整備を進めています。



フリーアドレススペース

【育児と仕事の両立】

シーシーアイは、子育てをする従業員に対し、法定以上の育児休業制度や短時間勤務制度を導入しています。2022年度には育児目的休暇が子が3歳の年度末まで取得期間を延長し、男性でも育児に参加しやすい体制を構築しました。

▶DE&I

【LGBTQに関する取り組み】

シーシーアイは、LGBTQを正しく理解するために全従業員を対象に外部講師による研修を実施し、2022年度からアライを募り、活動を開始しました。レインボーバッジを配付し、アライの見える化を推進していきます。これらの取り組みが評価され、2022年度より2年連続PRIDE指標(LGBTQへの取り組みの評価指標)でブロンズ認定されました。



アライ
(LGBTQを
理解し支援する人)

93人 (2024年3月時点)

▶デジタル化による生産性向上

シーシーアイは、全部門の業務のデジタル化、自動化を推進し、会社全体の生産性向上および従業員の働きやすい環境づくりに取り組んでいます。

2018年度より工場のスマートファクトリー化の活動を開始し、製造工程の可視化や製造指示書・品質チェックなどをデジタル化し、生産性向上、品質向上を進めています。

また2019年度よりRPA業務自動化ロボットを導入し、受注入力業務の自動化を進め、2023年度で自動化率72%を達成しました。



業務デジタル化
等による
労働時間の削減

2,036h

(2023年度 社内で算出した暫定値)

ESG活動報告 社会

人権の尊重

基本的な考え方

シーシーアイグループは、企業理念に基づき、時代に合わせてビジネスモデルを変えながら、これまでにない付加価値を絶えず社会に提供するために尽力しております。私たちは、人権尊重を事業継続のために果たすべき最重要の責務の一つと位置づけ、「シーシーアイグループ人権方針」を定め、役員及び従業員一体となって取り組みを推進します。

▶方針

人権に関するコミットメントとして「シーシーアイグループ人権方針」を当社コーポレートサイトで公開しています。

シーシーアイグループ人権方針

▶人権デュー・ディリジェンス(人権DD)

シーシーアイグループは、2022年より国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づき人権デュー・ディリジェンス*を開始しました。

<是正措置>

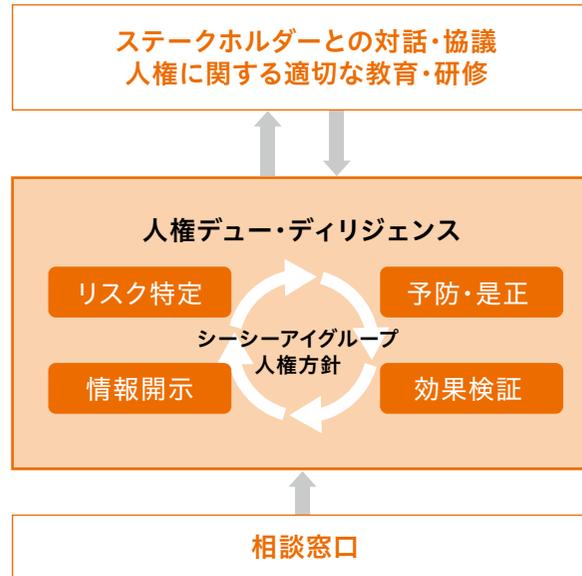
2022年度に実施したアセスメントに基づき、協力会社に対して、労働災害発生時のルール整備等の是正措置に取り組みました。また、グループ会社においては、グループ全体での水準をあわせ人権リスクを低減するために、人権に関する規程類や従業員の声をくみ取る機会の整備を進めました。

<アセスメント>

2023年度は国内外のグループ会社および協力会社91社から自己評価調査票(SAQ)に回答いただき、リスクの調査・分析を行いました。今後は、特定した課題について、対応を進めていきます。

*人権デュー・ディリジェンス：人権への負の影響を特定、防止、軽減し、どのように救済するかという継続的なプロセス

■取り組みの全体像



▶教育の実施

シーシーアイは、2021年より毎年、国内のすべての役員と従業員を対象に、人権尊重の教育を実施しています。2023年度は、シーシーアイがビジネスと人権に取り組む背景や起こりうる人権リスクの理解およびハラスメントの防止を目的に、eラーニングおよび外部講師による研修を実施しました。更に管理職には人権デュー・ディリジェンスの取り組み結果を共有し、当社が直面する課題を理解し、ともに取り組むことを推進しています。

TOPIC

エチケットに関するトレーニングを実施

シーシーアイ・マニュファクチャリング・イリノイ(米国)では、全従業員が安心・安全に働けるよう、ハラスメントやオフィスのエチケットに関するトレーニングを定期的実施しています。

▶相談窓口の設置

国内外のすべてのグループ会社の従業員が利用できる相談窓口を設置しています。また、定期的に研修などを通じて相談窓口の周知に努めています。すべての相談・通報については、事実関係の調査を行い、相談・通報者には調査結果を回答するとともに、必要に応じてその是正や再発防止に取り組んでいます。

労働安全衛生

基本的な考え方

シーシーアイグループは、企業理念に基づき、安全と健康をすべてにおいて優先して、取り組みを推進します。

▶労働安全衛生への取り組み

シーシーアイは、労働災害リスクの低減・管理のため、労働安全衛生マネジメントシステム(ISO45001)を全拠点に構築し、安全・防災標準を策定しました。また重傷につながるリスクを軽減するために、適切な作業手順の整備、保護具着用の徹底等の対策や、経営層も含む工場内安全巡回を実施しています。今後も、グループ全体での安全基準の制定、従業員の安全意識の向上を目的とした継続的な教育を実施し、労働災害リスクの低減に努めていきます。



シーシーアイ・マニュファクチャリング・イリノイ(米国) 工場内安全巡回の様子



各工場の入口にポスターを掲示

ESG活動報告

ガバナンス

Governance

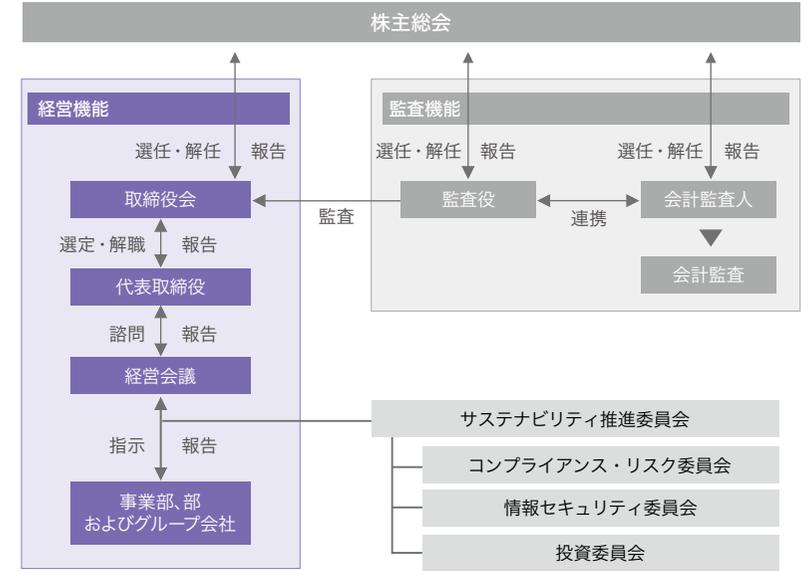


シーシーアイグループは、経営の透明性を高めながら監督機能の強化と意思決定の迅速化を図り、コンプライアンスを確保することをコーポレート・ガバナンス上の最重要課題と位置づけています。コーポレート・ガバナンス体制の強化・充実を推進することにより、企業価値の向上をめざしています。

コーポレート・ガバナンス

シーシーアイは、従業員をはじめ、株主様・お客様・取引先様・地域社会などすべてのステークホルダーを意識した、透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定ができるよう、右図のとおりコーポレート・ガバナンス体制を構築しています。最高経営意思決定機関である取締役会は、法令に定められた事項や経営に関わる重要事項の決定、取締役の監視機関として位置づけています。一方で公正・独立の立場から社外監査役を含めた、監査役が取締役の職務執行、経営の監査を行う体制を構築しています。

■コーポレート・ガバナンス体制図



コンプライアンス

基本的な考え方

シーシーアイグループは、「行動規範ガイドブック」を作成し、法令を守ることにとどまらず、全従業員が一人ひとり高い倫理観をもって行動することで、コンプライアンスの徹底に努めています。

▶法規制対応

シーシーアイは、法規制の新設・改正の対応について、漏れなく正しく行うことを目的に、顧問弁護士と関連部門での定例ミーティングを毎月開催し、新設・改正情報、当社の対応や進捗状況を共有し、管理する体制を構築しました。今後も管理体制の強化に努めていきます。

▶内部通報

シーシーアイグループは、不正行為の未然防止、早期発見および是正を図り、コンプライアンス経営を推進することを目的として、内部通報システムを導入しています。従業員からの相談事や内部通報を受け付ける社外・社内の窓口を設置し、コンプライアンス事務局が適切に処理します。



重大
法令違反

0 件

(2023年度)



通報件数

重大な法令違反や
不正行為に関わる通報

1 件

(2023年度)

ESG活動報告 ガバナンス

コンプライアンス

▶教育の実施

シーシーアイグループは、正しい知識の定着、意識の醸成を図るため、行動規範研修や外部講師によるコンプライアンス研修、ハラスメント研修を継続的に実施しています。今後も従業員の更なる意識の向上、浸透を図っていきます。

リスクマネジメント

▶事業継続計画

シーシーアイは、緊急時対応計画(ERP)・危機管理計画(CMP)・事業継続計画(BCP)マニュアルを策定し、事業継続管理(BCM)体制を構築しました。毎年、定期的な見直し・訓練の実施を行うことで有事の際、誰もが動ける備えができるよう取り組んでいます。

 安否確認システム
訓練回答率 **100%** (2024年3月)



総合防災訓練の様子(2023年12月)

情報セキュリティ

基本的な考え方

シーシーアイグループは、企業理念に基づき、事業活動において情報セキュリティの確保は企業の社会的責任を果たす上で重要な経営課題の一つと位置づけ、2023年に「情報セキュリティ基本方針」を策定し、情報セキュリティの維持、向上に取り組んでいます。

▶方針

「シーシーアイグループ情報セキュリティ基本方針」を当社コーポレートサイトで公開しています。

シーシーアイグループ情報セキュリティ基本方針

▶情報セキュリティへの取り組み

シーシーアイは、情報セキュリティマネジメント体制を構築し、不適正な事案が発生した場合には、原因究明、再発防止と予防策の措置を講じています。また、業務のデジタル化やDXを推進する中で、サイバー攻撃や情報漏洩によるリスクを軽減するために、セキュリティソリューション(EDR)を導入し、情報セキュリティの強化に取り組んでいます。今後は国内だけではなく、シーシーアイグループ全体での情報セキュリティ管理の強化に努めていきます。

■シーシーアイの主な取り組み

- 情報セキュリティ管理体制の強化
- 情報資産の管理
- 情報セキュリティインシデントに対する対応
- 情報セキュリティ教育

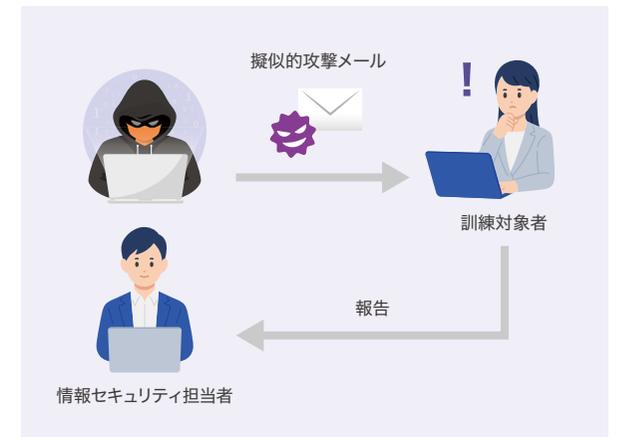
▶教育の実施

シーシーアイは、全従業員を対象とした情報セキュリティ教育や標的型攻撃メール訓練を実施しています。また政府のサイバーセキュリティ月間に合わせ、毎年2月～3月を情報セキュリティ強化月間とし、従業員が日常業務の中で情報セキュリティリスクを意識するための啓発活動を実施する等、情報セキュリティ基礎知識の向上を図っています。

研修会アジェンダ

1. セキュリティとは
2. 社外からの犯行
3. 社員としてのふるまい
4. 自然現象、物理的損壊
5. まとめ

情報セキュリティ教育資料



標的型攻撃メール訓練の実施

ESG活動報告

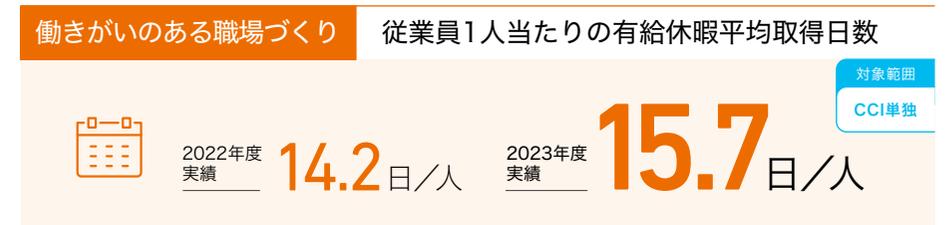
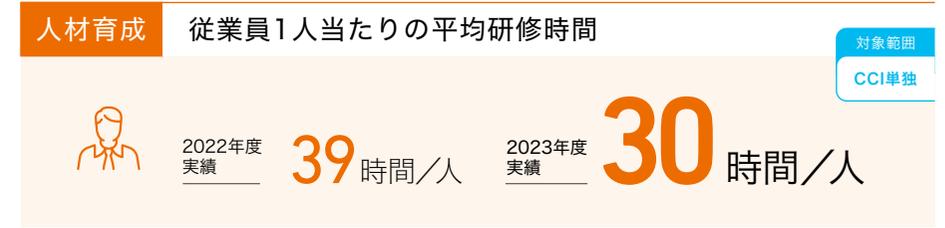
ESGデータ一覧

環境



社会

対象範囲 CCI単独 :シーシーアイホールディングス(株)、シーシーアイ(株)が含まれる
CCI連結(国内):シーシーアイホールディングス(株)、シーシーアイ(株)、下田エコテック(株)が含まれる



※1 女性育児休業の取得率 = 2023年度に育児休業を開始した人数 / 2023年度に子どもが生まれた人数
 ※2 男性育児休業および育児目的休暇の取得率 = 2023年度に育児休業・育児目的休暇を開始した人数 / 2023年度に子どもが生まれた人数

ESG活動報告

ESGデータ一覧

社会



※3 休業災害以上

対象範囲 | CCI単独 :シーシーアイホールディングス(株)、シーシーアイ(株)が含まれる
CCI連結(国内):シーシーアイホールディングス(株)、シーシーアイ(株)、下田エコテック(株)が含まれる

ガバナンス

